

# 美術館だより

## 拡大常設展示（案内）

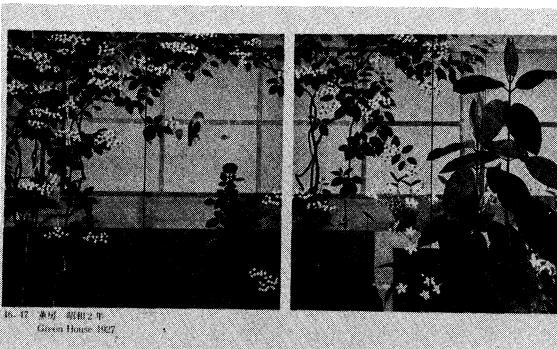
けるものと思ひます。

常設展は十月から展示替えとなり、展示室は開館以来の第一期とは趣の異なる景観を見せております。今年度第二二期分として十二月一杯まで観覧していただけます。

また、千点におよぶ収蔵品を多数観覧していくため拡大常設展示を行います。二階の四つの展示室はもとより、一階の企画展示室Bまで広げ、前期は十二月一日から十六日まで「福島の美術家たち」と題するテーマで、主として彫刻、工芸を展示します。この他、これまでその一部しか見ていただけなかつたジョルジ・ルオーの版画集「ミゼレーレ」の全作品を公開します。

後期は来年一月十一日から三十一日まで「福島の美術家たち」では、主として彫刻、書を展示します。また、ベン・シャーンの版画集「リルケのマルテの手記より」の全作品を展示します。にぎわいを見せた三本の開館記念展も十一月十八日（日）の第三部の終了をもって閉じますが、その後は常設展示のバリエーションをお楽しみいただ

十月からはじまりました美術鑑賞講座では、当館学芸員が各種のテーマで解説しています。第一、第三土曜日の午後一時三十分から講義室で行っています。来年三月まで計十回ですが、自由に参加できますので、お気軽にどうぞ。



小茂田青樹作「薰房」

### 「ヒマラヤの花」

④

### 「薰房」

⑤

福王寺法林作

小茂田青樹作

日本美術院同人・福王寺法林は、昭和四十九年から毎年ヒマラヤへの取材を続け、その成果を次々と院展に発表して、今最も注目を集めている画家の一人です。

アンナブルナ南峰から続くゴラパニ峰の周辺には、ネバールの国花であるシヤクナゲの原生林があり、毎年四月中旬から咲き始めます。幹の直径一メートル、高さが二十メートルにも達する木々に咲き乱れるシヤクナゲの花は、辺り一面を見渡す限りの真紅で埋めつくして、見る者を圧倒します。

作者は、ネパール軍の軍用ヘリコプターを特別にチャーターし、モディ・川とカリダンガキの間のゴラパニ峰、それに続くアンナブルナ南峰の尾根へと何度も着陸・離陸を繰り返し、生命を賭した取材をもとにしてこの大作を描き上げました。

老成した巨木に咲き誇る真紅の花、緑青の葉。そしてかすかな樹間からアシナブルナ南峰やダウラギリのヒマラヤの白い山々が迫り、その対照が画面に大きな空間を作り出しています。この作品に対して、昭和五十八年度の芸術院賞が贈られました。

的確な描写力と平明な色使いによって描き出された花々は、あたり一面によい香りを放っているかのようです。

制作年 一九七七年  
紙本著色 紙本著色  
二曲一双屏風 二曲一双屏風  
一三五・五×一三四・五

センチメートル センチメートル

制作年 一九八三年  
紙本著色

一八五・三×三六七・〇  
センチメートル